

森の通信

Museum and Cultural Institutions of Miyazaki Prefecture

宮崎県
総合博物館だより
第10号

発行日/平成2年5月31日

発行/宮崎県総合博物館 〒880 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL (0985) 24-2071

1907年、ピカソ26歳。この春、彼は、彼自身の生涯において、最も重要な転換点となった作品を描いています。それは縦横ともに2メートル以上もある大作《アヴィニヨンの娘たち》です。この作品は、遠近法や陰影による立体感の表現などルネッサンス以後の西洋絵画の伝統的な表現形式を全く無視したものでした。まさに伝統破壊者・ピカソ芸術のスタートといえる作品です。この後、彼はさまざまな実験を試みながらこのキュービズムの作風を追求しました。

そのキュービズムの作風が、やがて影をひそめ「新古典主義」と呼ばれる端正で美しい人物を描くようになります。そのきっかけは、新しい愛人となったロシア・バレエ団のバレリーナ、オルガとの出会いでした。彼は、彼女の美しさを、正真正銘の美しさを描き出すために、見事な古典主義的技法を用いました。この作品—写真—は、この頃の代表作の一つです。ここに描かれているサルタンバンクは、寄席やサーカスに属さず、大道で玉乗りなどの軽業を見せる旅芸人のことです。

ピカソは「キュービズム時代」以前の「ばら色の時代」からくり返しサーカスの道化や大道芸人を描いています。ピカソの絵が今日まで、世界中の人々に親しまれ愛されているのは、彼の奥底に貧しい人々や虐げられた人々への共感があるからでしょう。

この展覧会では、このほかに、ピカソのその後の作風の変化を知ることができる「茄子」や「画家とモデル」など4点を展示しています。(永井)



ピカソ〈腕を組んですわるサルタンバンク〉1923年

ブリヂストン美術館名作展

ブリヂストン美術館が所蔵するコロー、モネ、ルノワール、セザンヌ、マティス、ピカソ、ロダンらヨーロッパの巨匠の作品に黒田清輝、藤島武二、佐伯祐三、藤田嗣治ら日本の画家の作品を加え名作117点を紹介。

会 期—平成2年5月19日(土)~6月17日(日) 月曜日は休館日

会 場—宮崎県総合博物館

主 催—ブリヂストン美術館、宮崎県、宮崎日日新聞社、宮崎県教育委員会、宮崎県総合博物館

入館料—大人 900(700)円 高・大生 600(400)円 小・中生 400(200)円

(消費税込み) * () 内は前売・団体(20名以上)の料金

「日向路の西郷」展によせて

幕末から明治初期にかけての近代日本の草創期は、個性あふれる有能な人材がキラ星の如く現れた時代でした。なかでも西郷隆盛は、その政治的手腕はもとより、その人柄・生き方においても人をひきつけて離さないスケールの大きさを兼ね備えた人物であったようです。

さて1877（明治10）年2月、この西郷隆盛を領袖として明治新政府の開明的諸政策に鋭く反対しておこった争乱を西南戦争といえます。当時宮崎は鹿児島県に併合されていました



西郷隆盛肖像画
（池田益雄氏所蔵）

が、西郷が蜂起した報を聞くや否や、日向の各地から2,000人をこえる士族が薩軍に加わり戦闘に従軍しました。明治政府も、その威信をかけ全力をあげてこの争乱の鎮圧にあたったために熊本城の攻防や田原坂の戦いに代表されるような激戦が各地でくりひろげられたのです。

ところで、この西南戦争では、3月下旬の田原坂の戦いを契機に、薩軍は次第に退却の一端をたどるようになりました。五ヶ瀬から一旦人吉へ抜け、えびの・小林を経て5月末には西郷隆盛は宮崎に軍務所を移したのです。2ヶ月余りの宮崎滞留中、西郷はめったに人前に姿をあらわすことはなかったといわれています。「薩摩西郷さんは仏か神か、姿見せず[※]に戦する」といわれたのもこの頃のことでしょう。宮崎に軍務所を移した頃には、薩軍は武器・弾薬・食糧に加え人手も不足しがちになっていました。西郷札を大量に発行し資金不足を補おうとしたの

もそのような事情があったからでしょう。7月末には政府軍の攻勢にあい、追われるように宮崎から高鍋・都農・美々津を経て延岡に拠点を移しました。しかし、延岡においても8月中旬の和田越の戦いで、山県有朋指揮する政府軍の前に大敗を喫し、ついに西郷は軍を解散し、自らも軍服を焼いたといわれます。その後西郷以下残兵は厳しい包囲を突破し、高千穂から九州山地を昼夜兼行で縦断し、9月初め鹿児島に帰着、そして9月24日城山で全滅したのです。

こうして明治政府を根底から揺るがした士族の武力による最大・最後の争乱はここに終結し、以後は言論による自由民権運動が反政府運動の主力になっていきました。このように考えてきますと、この宮崎の地が、西南戦争という時代の結節点の大きな舞台であったことの重みを改めて感ぜざるを得ません。県内各地には、今なお西南戦争の戦跡や貴重な文献・資料が散在していますが、これらの戦跡をたどり、様々な資料にふれながら、明治初期の激動の宮崎の歴史を改めて思いおこしてみることも大変意義深いことではないでしょうか。

（津隈）

※の「」は宮崎日日新聞発行 宮崎県大百科辞典から引用。



薩軍の造幣した西郷札（本館蔵）



【子供たちの見学の様子】

私たちの郷土の自然や歴史・美術など楽しい学習の場として、県内各地から小・中学校の皆さんが来館されています。

平成元年11月から平成2年4月末までに来館された学校・団体の皆さんは、右表のとおりです。

県内来館団体一覧(11~4月)

11月	浦城中、上南方小、日知屋東小 吾田東小、恒富小、江南小 田野小家庭教育学級、国富小、木脇小
1月	宮崎東小、大宮小、赤江小、檜小
2月	小戸小、池内小、檜北小、東大宮小 大淀小、江平小、恒久小、大塚小 宮崎北高、生目小、石山小
3月	都城市史跡OB会、東諸SAP
4月	今町小

自然観察会・採集作品展のお知らせ

① 自然観察会 宮崎地区

期日 7月24日(火)

対象 小・中学生

内容 植物・昆虫の観察・採集

② 自然観察会 延岡地区

期日 8月5日(日)

対象 小・中学生親子

内容 植物・昆虫等の観察・採集

③ 採集作品の名前を調べる会

期日 8月26日(日)

対象 小・中学生

内容 植物・昆虫等の名前の分からない種をいっしょに調べます。



〈昨年の名前を調べる会〉

④ 小・中学校児童・生徒の採集作品展

期日 10月30日(火)~11月11日(日)

対象 小・中学生

内容 夏休み等を利用して作成した植物や昆虫・貝等の採集作品を募集・展示します。

※お問い合わせは、本館自然担当まで

